

第2回農村RMO推進研究会

農村RMOにおける各府省施策の活用について

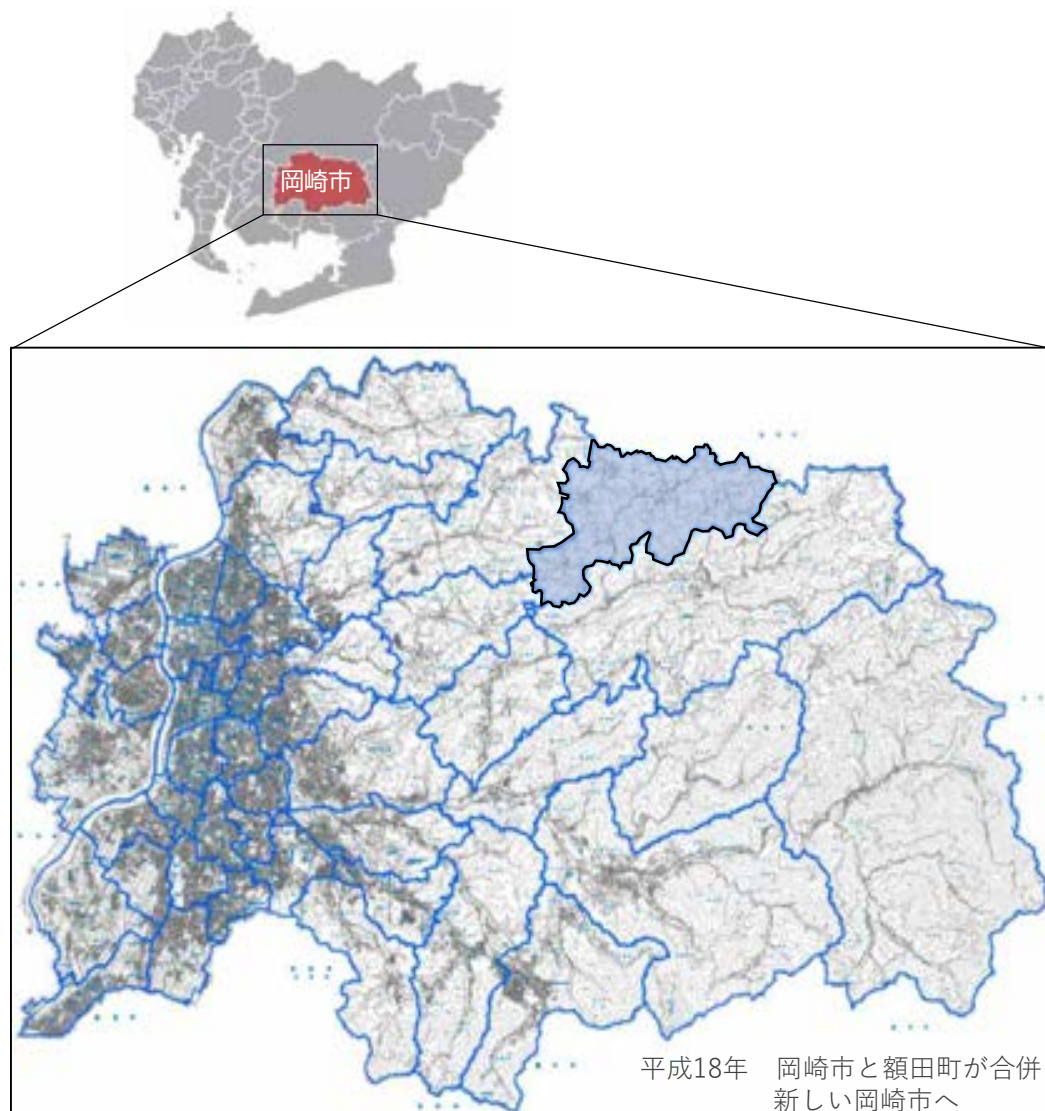
令和6年1月10日（水） 13:30～16:30

岡崎市下山学区地域づくり協議会
取組事例紹介

岡崎市下山学区地域づくり協議会

生活支援部会長 杉浦 圭
地域資源活用部会長 成瀬 健

下山（しもやま）学区とは



下山学区

○面積：1,505ha

○人口：590人（R5.4.1現在）

岡崎市47学区のうち最少

○下山小学校児童数：17人

（うち2名は学区外から通学）

里山の風景と歴史を巡る

下山まちものがたりマップ

野山に咲く花、吹き渡る鳥、鳥のさえずりから四季を感じられ、地域交通「まさゆりバス」がのどかに走る山間の集落、その歴史は古く、室町時代から明治時代までの貴重な史跡も点在しています。現在工事中のトヨタテストコースには地域活性化への期待が寄せられています。



新築から夏が光る平野のテストコースのシオタマ

トヨタテストコースとは…
 四河一豊田両市域にまたがる約460haの敷地に建設予定のトヨタ自動車(株)の研究開発施設。平成19年に始まった内陸工業団地開発事業で、設立案件により平成27年の供用開始を目指して建設工事が進められています。



「保久八幡宮」の御朱印
 約100年前に建てられたこの御朱印は、現在も大切に保管されている。



中伊のビュースポット
 中伊町入道地区の東方眺望。赤松山や四河峠への眺望に恵まれる。



七ツ屋敷(民謡きの森)
 民謡発祥の地。本堂やドム、倉庫で民謡体験もできる。



まさゆりバス
 野山をめぐりように各村を結ぶ。河崎本陣跡一帯3地区に乗り換え、平日のみ運行



古道
 道の関所。トヨタやまがのウェーキングのコースになることも



うんげり
 江戸時代の保久陣屋施設を復元した地域活動の拠点。3つの建物



山下家基所(民俗歴史文化財)
 室町時代の保久陣屋・山下家の墓、墓前一間表と三河型がある



保久八幡宮
 明治29年の建築。国1線や大井川のある農村景観を再現文化財

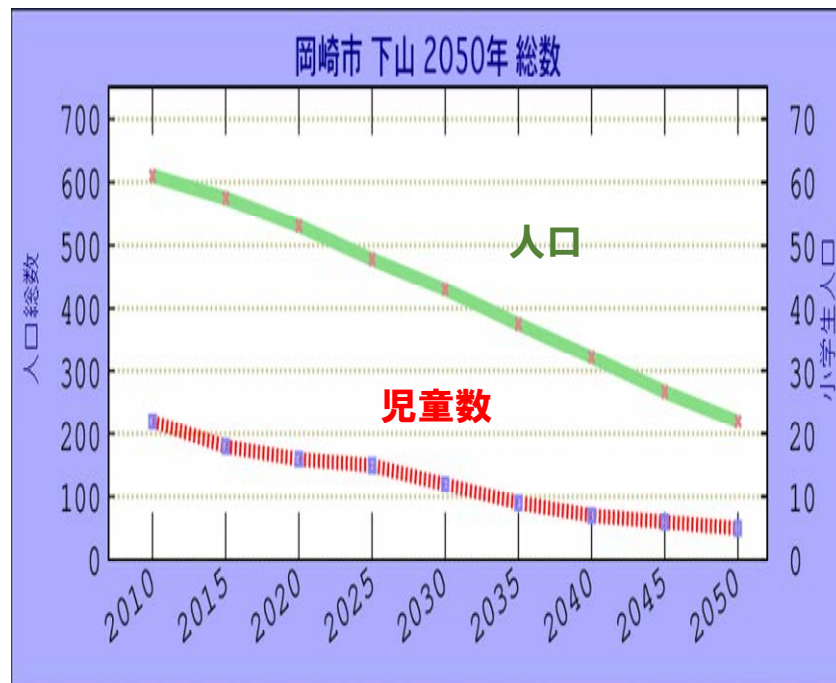


保久陣屋跡
 1853年(慶応4)から幕府に江戸12ヶ村を併合した村(3)の陣屋跡



廣中陣
 二層を築いた石塔と彫の木が目立つ。保久・富良野の目録の地にある

課題 1 人口減少



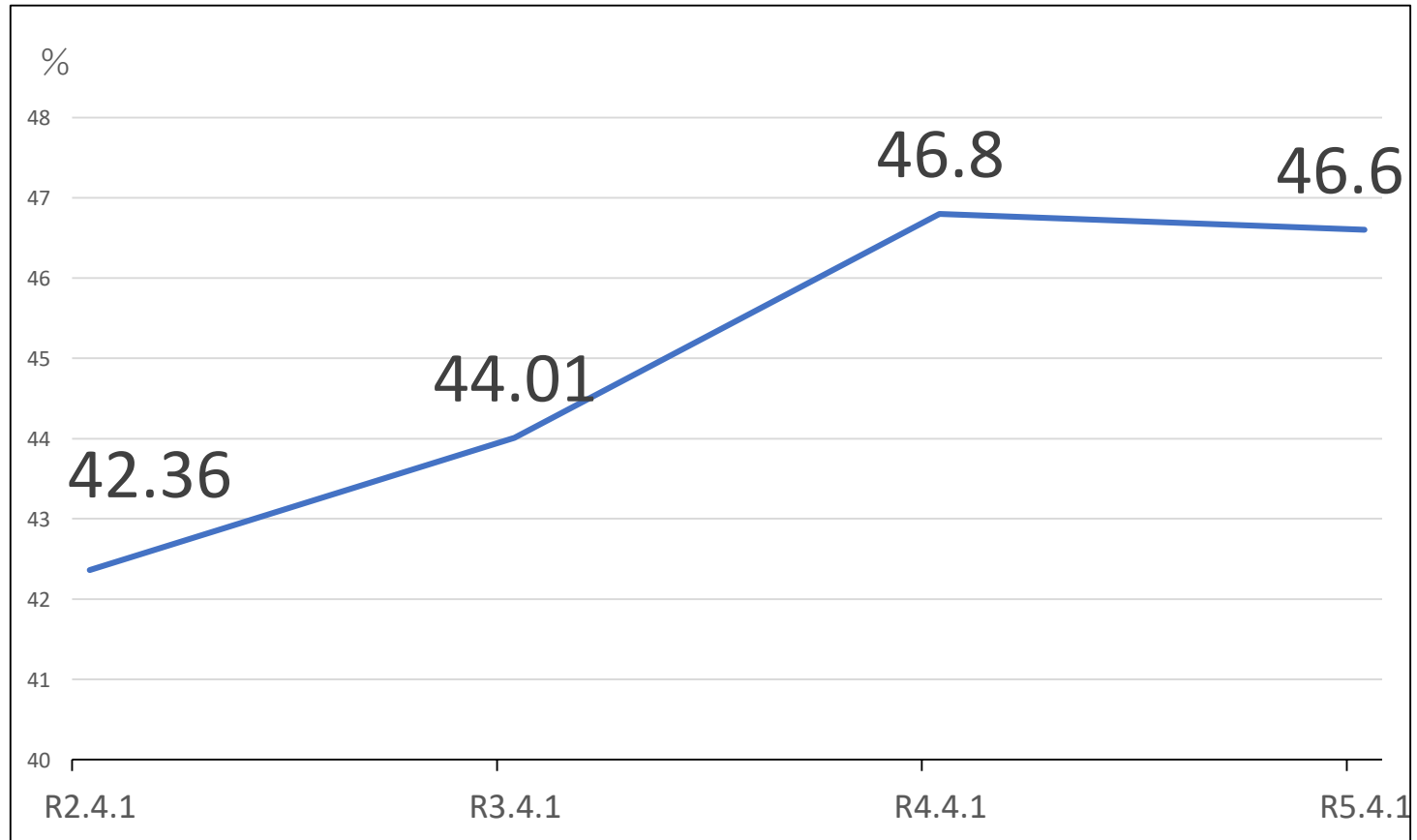
(名古屋大学大学院附属持続的共発展教育研究センター提供小地域ごとの簡易人口推計ツールを使用)

何もしなければ地域は消滅に向かう

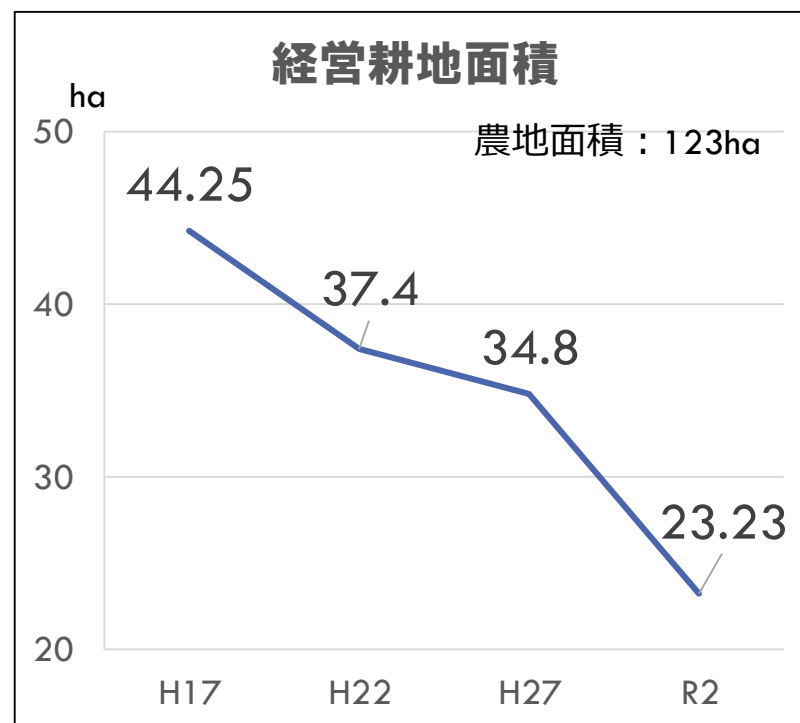
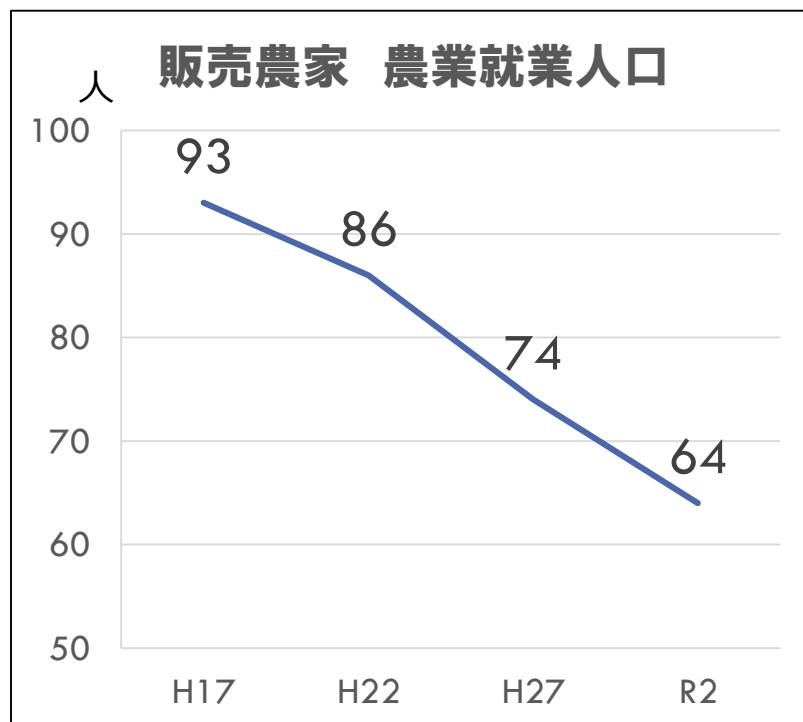


1世帯／年の子育て世代の移住で地域は持続

課題 2 高齢化率



課題3 農業



(農林業センサス)

鳥獣被害 (R 4 下山学区分)

274万円 (イノシシ119万円、ニホンジカ89万円、ニホンザル32万円)

(岡崎市調査)

課題 4 集落機能の弱体化

- H31.3
 - JA支店 閉店
 - Aコープ 閉店
- R5.4
 - 学区内唯一の保育園一時休園
- R6.3
 - 中学校寮の廃止
 -
 -
 - ?



閉店したJA下山支店、Aコープ下山店

下山のよりよい未来を考えるワークショップ

(R4.1.16)



改善するために自分たちでできること

【課題意識】

- ・特定地域等に先行して定住者を増加させたい。住居に定住したい。
- ・体験地の有効活用（キャンプ場、農地・山・林を活用した子供の体験地）
- ・体験型ワークショップで定住者の定着を促す
- ・定住者を以てバージョンアップ事業に活用

【思いや不安】

- ・若い人が地域的に定住したい場所をつくる
- ・定住者を呼び込み、そのための支援（施設等）として、育てたが定住者が来ないという体験もつくくる

【教育環境】

- ・同様に開発された自治体やチームを事例として見せて話し合う
- ・バス等に展示してある小学校の環境を現地を訪ねて見たりする
- ・下山小学校の特色ある教育をもつて地域発信する。広域の環境を生かした学びの場をつくる（職業・科学・アート等）

【その他】

- ・C&D活動等を始めて企業を誘致する
- ・自然による健康・社会づくり
- ・ブライドルの活用もつじつまを合わせる
- ・併設の集会所

ワーク1の姿を考えよう!

空き家・空き農地を活用して、下山の特色を活かした体験教育や働く場をつくりたいグループ

Aグループではこのテーマの西「体験教育」「教育環境」「その他」の3点について具体的な意見が述べられました。「(1)の意見」では、「Aグループ」が「体験教育」について、「体験教育」をいかに活用するかを話し合っていました。「(2)の意見」では、「体験教育」をいかに活用するかを話し合っていました。

また、「(3)の意見」では、「体験教育」をいかに活用するかを話し合っていました。

また、「(3)の意見」では、「体験教育」をいかに活用するかを話し合っていました。

また、「(3)の意見」では、「体験教育」をいかに活用するかを話し合っていました。

～交付金活用前～

A～Dグループにわかれて地域の課題抽出と地域の目指す方向性を議論

岡崎市下山学区地域づくり協議会の設立

(R4.4.1)

目的

下山学区における生活や暮らしを守るため、住民が一体となり、生産、生活扶助、資源管理に取組み、地域コミュニティ機能の維持・強化を図る事業を行う

トヨタ自動車テストコース造成を契機に、まちづくりの構想等を検討・推進するため設立 (R1)
会長 = 協議会会長
副会長 = 協議会副会長

協議組織 (構成団体)

<u>下山学区対策委員会</u>	農業生産組合
あいち三河農業協同組合	岡崎森林組合
学識経験者 (中京学院大学)	<u>岡崎市</u>

【事務局】
協議会の事務・経理
地域の伴走支援

運営委員会 (事業計画・企画・運営)

農用地保全部会長	地域資源活用部会長	岡崎市社会福祉協議会
生活支援部会長	企画施設運営部会長	(地域おこし協力隊)

実行組織

農用地保全部会	地域資源活用部会	生活支援部会	企画施設運営部会
---------	----------	--------	----------

下山学区将来ビジョンの策定

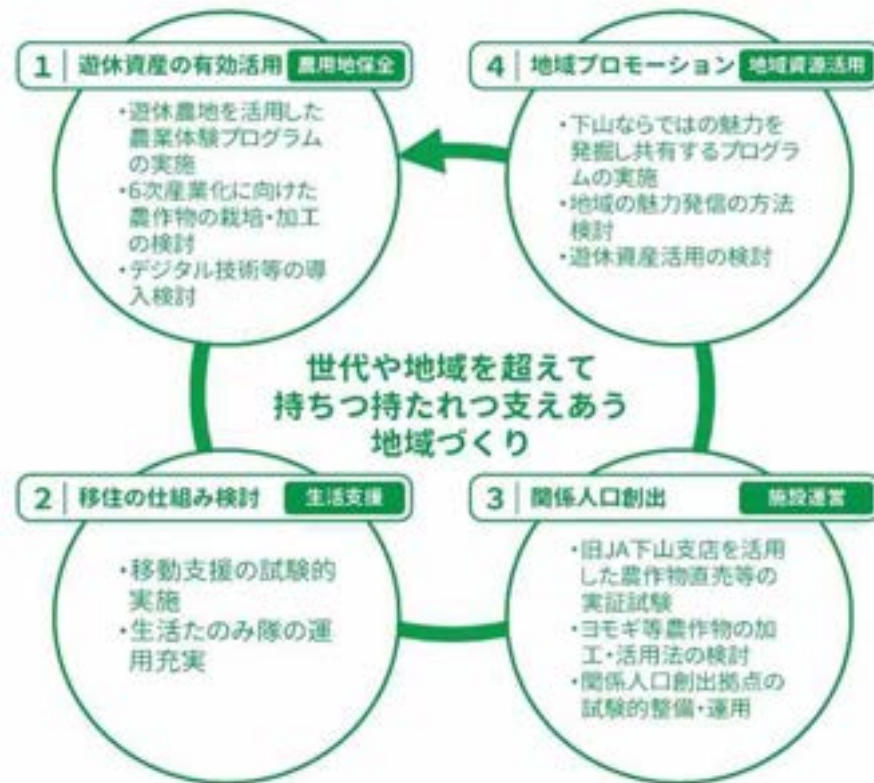
～下山のよりよい未来を考えるワークショップ～

【開催日】 令和5年1月22日（日）開催



[キャッチ]

田畑と山に子どもの声がこだまする
世代や地域を超えて持ちつ持たれつ支えあう
小さくても輝くまち下山



「オクオカ活性化拠点下山 YAMABIKO」

旧JA下山支店、A-COOP下山店

敷地面積1,558.73㎡
鉄骨平屋建439.03㎡
S63.12.15竣工
H31.3.31閉店



閉店した店舗を活動拠点として活用し、関係人口増加のため、さまざまな行事を企画する。

企画施設運営部会

住民の手でリノベーション



オクオカ活性化拠点下山「YAMABIKO」へ



子育て世代を中心に
地域コミュニティ食堂として
月1回開催中



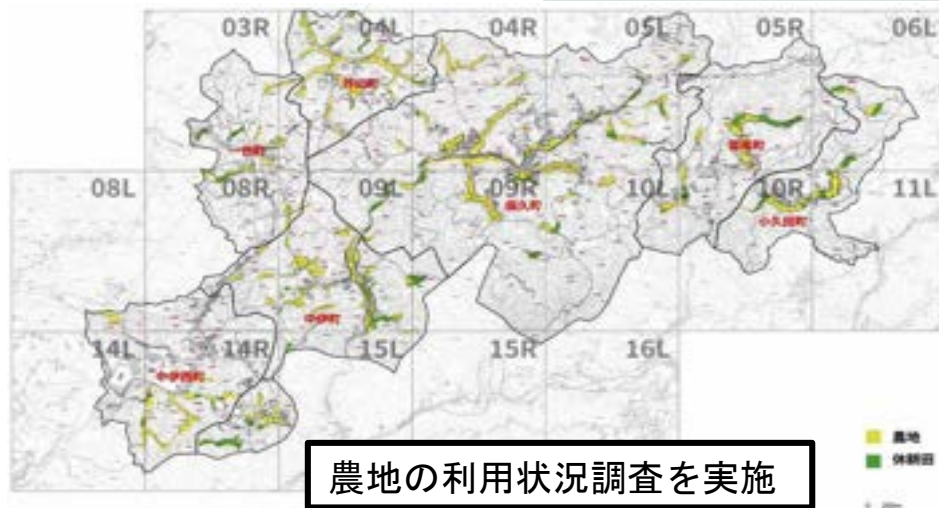
農用地保全部会



地域外から28組の家族が参加
 (申込は72組で抽選)
 「となりの田んぼ」(全5回の稲作体験
 プログラム 30,000円/組)



耕作放棄地(畑)を地域住民で整備
 都市部住民の体験用農地へ実証



農地の利用状況調査を実施

地域資源活用部会

一緒に歩きませんか？ ～クアオルト®健康ウォーキング～

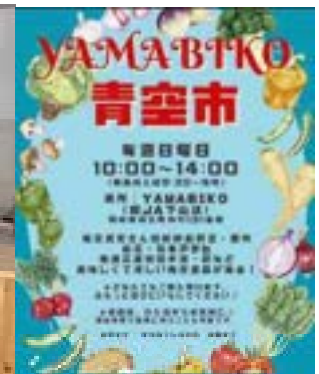
▼クアオルト®健康ウォーキングとは？

ドイツのクアオルト（健康保養地）で自然の地形や風を利用して行われている運動療法を基に考案された健康づくりのためのウォーキングです。あらかじめ専門家により計測されたコース（クアの道）を指導者とともに心拍数や血圧などを測定しながら個人の体力に合わせて安全・効果的に歩く新しいスタイルのウォーキングです。



YAMABIKO青空市
(農林産物直売所毎週日曜開催)

地域の野菜等を使った
梅味噌やドライフード
など試験販売



飲食提供のほか、
地域の農林産物が加工できる場となるよう
そうざい製造、菓子製造の許可を取得

「下山いやしの里山コース」 コース全長2.34Km 累積高度差104m

生活支援部会



YAMABIKO号
「地域支え合い事業」
岡崎市社会福祉協議会による貸出車両
拠点施設YAMABIKOに一台常駐

益の会 下山学区限定

生活たのみ隊

生活のお困りごとのお手伝い
はじめます！！

健康の維持の、毎日の暮らしのお役に立ちたい
という思いで立ち上がりました！
よろしくお願ひします！

例えば・・・開かない扉を開けてほしい
電球の交換
買い物に行きたい
話し相手になってほしい
掃除を手伝ってほしい
などなど

お手伝い内容はご相談ください！

お手伝い 30分 500円～

受付時間 朝7時から夜9時まで
お電話お誘い！アお誘いませ！

生活たのみ隊

おにむけよくのーびー

**小規模特認校制度で
下山小学校に通おう！**

小規模特認校制度は、遠隔地内における1学年未満
の児童の教育機会確保を図るための制度です。
少人数制で先生や児童の個性がより活きやすくなり、
子どもが主体的に学ぶ環境が整います。

ぜひ一度、
しんすまの子どもたち
の思いを聞いてください。

お問い合わせ先
岡崎市社会福祉協議会
〒464-0801 岡崎市山崎町1-1-1
TEL: 0564-821111
FAX: 0564-821112

お問い合わせ先
岡崎市立下山小学校
〒464-0801 岡崎市山崎町1-1-1
TEL: 0564-821111
FAX: 0564-821112

小規模特認校制度PR

第2回農村RMO推進研究会

農村RMOにおける各府省施策の活用について

令和6年1月10日（水） 13:30～16:30

岡崎市下山学区地域づくり協議会
他施策との連携について

岡崎市下山学区地域づくり協議会 事務局
岡崎市経済振興部中山間政策課
副課長 畔柳 典生

「小さな拠点」と連携した農村RMO形成の取組

・ 人口減少や高齢化が進行する中で、暮らしを守り、地域コミュニティを維持して持続可能な地域づくりを目指すための取組として、「小さな拠点」の形成に併せて、農村資源を活用した農村RMOの活動を展開。

＜愛知県岡崎市＞

- 愛知県岡崎市では、地方創生推進交付金（現：デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生 推進タイプ））（内閣府）を活用し、地域の魅力発信と関係人口の創出や移住・定住の促進、「小さな拠点」形成に取り組み。
- これと連携し、「岡崎市下山学区地域づくり協議会」が、農村RMO形成推進事業を活用し、イベントの試行や農用地保全等の活動により、地域づくりの取組を深化させ受入態勢を整備。

地方創生推進交付金 （対象：市全域）



地域の魅力を情報発信



移住相談窓口の設置



耕作放棄地を活用した漆の栽培



小さな拠点における施設活用計画の策定



地区別の将来ビジョンの策定

農村RMO形成推進事業 （対象：下山学区）

（取組イメージ）



暮らしを守る心の拠り所、未来を拓く希望の拠点



体験農園による多世代との交流



岡崎市下山学区地域づくり協議会
（農村RMO）

関係人口の受入態勢を整備

下山学区の成果を波及

9地区で小さな拠点形成
を目指す

●：小さな拠点の形成を目指す地域

小さな拠点

中山間地域等において、地域住民の生活に必要な生活サービス機能やコミュニティ機能を維持・確保するため、集落生活圏における生活サービス機能や地域活動の拠点施設を一定程度集積・確保している施設や場所・地区・エリア

「小さな拠点」と連携した農村RMO形成の取組

・ 人口減少や高齢化が進行する中で、暮らしを守り、地域コミュニティを維持して持続可能な地域づくりを目指すための取組として、「小さな拠点」の形成に併せて、農村資源を活用した農村RMOの活動を展開。

＜ 愛知県岡崎市 ＞

- 愛知県岡崎市では、地方創生推進交付金（現：デジタル田園都市国家構想交付金）を活用し、人口の創出や移住・定住の促進、「小さな拠点」形成に取り組み。
- これと連携し、「岡崎市下山学区地域づくり協議会」が、農村RMO形成推進事業の取組を深化させ受入態勢を整備。

旧JA下山支店の賃借
(旧地方創生推進交付金活用)

地方創生推進交付金
(対象：市全域)

農村RMO形成推進事業
(対象：下山学区)



地域の魅力を情報発信



移住相談窓口の設置



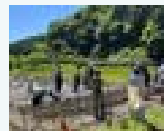
耕作放棄地を活用した漆の栽培

小さな拠点
施設活用計画

(取組イメージ)



暮らしを守る心の拠り所、未来を拓く希望の拠点



体験農園による多世代との交流

岡崎市下山学区地域づくり協議会

下山学区の耕作放棄地へ漆を植栽
(旧地方創生推進交付金活用)

9地区で小さな拠点形成
を目指す

地域情報や空き家情報を集約しマッチング（旧地方創生推進交付金活用）

下山学区の地域情報や空き家情報収集は、

市が「移住アドバイザー」に任命した協議会員が実施（集落支援員制度活用）

中山間地域等において、地域住民の生活に必要な生活サービス機能やコミュニティ機能を維持・確保するため、集落生活圏における生活サービス機能や地域活動の拠点施設を一定程度集積・確保している施設や場所・地区・エリア

こども食堂
(地域コミュニティ食堂)

- ・ 重層的支援体制整備事業
【厚労省】
- ※こども食堂関係部分
(岡崎市社協)
- ・ 岡崎市生活困窮者支援団体
活動費補助金【市】
- ※岡崎市社協支援



住民ボランティア輸送
(車両の貸与、高齢者等輸送)

- ・ 地域支え合い事業
【岡崎市社会福祉協議会】

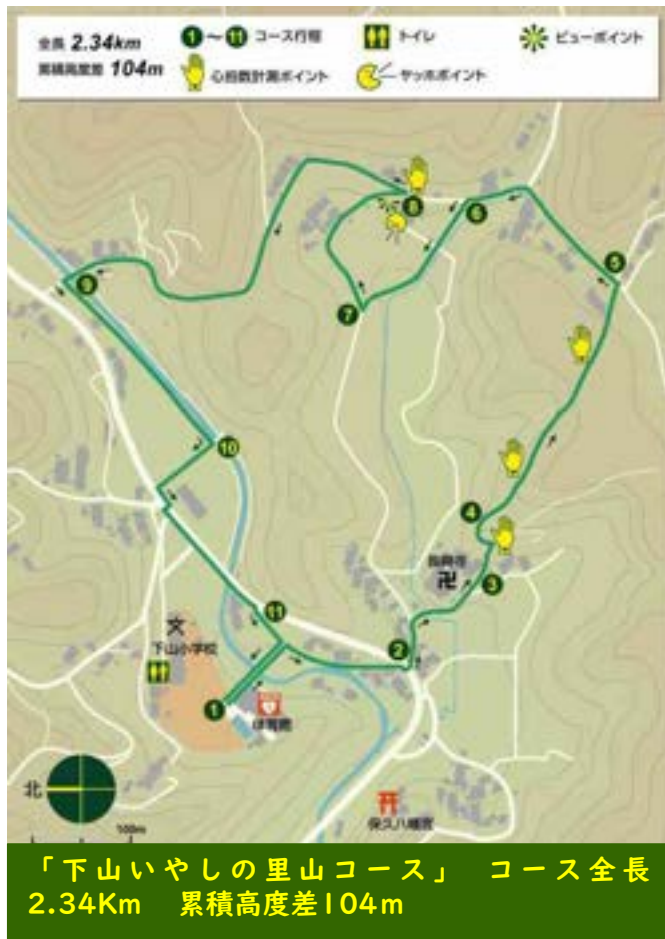
民間薬局による移動販売
(協議会拠点施設へ停留)

- ・ 新型コロナウイルス感染症
対応地方創生臨時交付金
【内閣府】
- ※市中山間地域全域運行

イベント支援スタッフとしての
大学生ボランティアの活用

- ・ ふるさと農村活性化対策基金
【市】





クアオルト健康ウォーキング事業

- ・ クアオルト健康ウォーキング
【市保健所事業】



成田 奈苗さん (みよし市から移住)

Q1 下山学区での農村RMOの設立に向けて地域のかたたちと活動しています。今年から始めた農林産物直売所で地域の野菜などを販売したり、地域支え合い福祉車両[※]を使って地域のかたを病院などに送迎したりしています。

Q2 街中まで20分くらいで行ける距離感なのに、自然が豊かでうぐいすの声をBGMにして暮らせる地域なことに驚きました。

(市政だよりおかざき8月号 オクオカ特集抜粋)

部会横断的に協議会の取組に関与

- YAMABIKO青空市 (直売所運営)
- SNSでの地域情報発信
- 耕作放棄地の整備、体験農園の企画
- 地元小学校と連携し小規模特認校PRなど

- ・ 地域おこし協力隊【総務省】

事務局として

- ・ 実動者（地域住民）が活動に集中できるよう交付金等の事務、経理をサポート
- ・ 各種、市、国等の補助制度等を情報提供
- ・ 法規制や行政制度の障壁をクリアできるように各種調整
- ・ 活動の方向性を会議などで共有

協議会の伴走者として市が支援する役割を担っています。



ご清聴ありがとうございました